

## 『桃山学院大学学生論集』第22号の刊行にあたって

学長 松 浦 道 夫

入選者の皆さんおめでとう。

本年度は79編の応募でした。ここ6年でもっとも多い作品で昨年より19増えました。大変うれしいことです。残念ながら学長特別賞と優秀作は該当者なしでしたが、佳作6編、準佳作4編の入選がありました。これももっとも多い入選作品数でした。平均してレベルアップしたと思います。

この論集に掲載される作品のそれぞれのテーマは、現代、近代を中心に多様性にとんでいます。政治、経済、経営、社会、国際、地域、人間の問題で桃山の特徴がよく現れています。つまりそれぞれの学部の特徴が出ています。そして論文作成のベースはやはりゼミにあることがよくわかります。学生自身の努力はもちろんですが、ゼミ担当の先生の温かいご指導も大きな支えになったと思います。卒業生次生は進路問題を抱えながら、論文作成に取り組み、ゼミの学習を続けられたことと、その努力に敬意を表します。また、入選されなかった皆さんも、ともに大きな成果があったことでしょう。

本学では、学生のさまざまな活動を奨励しています。スポーツ活動、国際交流、ボランティア活動、地域連携、大学コンソーシアム活動、課外活動など、どれも大切な活動です。しかし大学本来の教育は、今もなおゼミの学習や論文作成にあると思います。ですから、皆さんのこの努力と姿勢は全学によい影響を与えてくれるでしょう。

ささやかな表彰式でしたが、入選者の一人ひとりの笑顔がとてもさわやかでした。今、私立大学は大変厳しい状況にありますが、桃山も例外ではありません。私は本学の変化発展を願って努力しています。そのエネルギーのもとには学生の笑顔、生き生きしたキャンパスライフ、チャレンジする姿です。入選者の皆さんに心より感謝します。

この論集に掲載される論文は、学生生活の集大成であり記念であります。人はひとつのことを成し遂げれば、自然と次の目標ができ、新たな意欲が湧くものです。きっと皆さんは達成感や感動を味わったことでしょう。

さて、第22号の刊行は、審査委員の先生方のご苦勞と各所管の担当職員の方々のご支援の賜物と、学生とともにお礼申し上げます。